

習志野市障がい者地域共生協議会 vol.8

な ならしの ら た はたら く

～夢に向かって共に働く願いを込めて～

介護福祉施設の現場で働く人たちと共に

こんにちは。今回の「ならたく」取材班は、習志野市内の介護福祉施設で働く、障がいのある方に会いに秋津の新総合福祉ゾーンの中にある「ゆいまーる習志野」（新習志野駅から徒歩七分）を訪問しました。

結びつき、助け合う

副施設長の橋本様にご案内頂きました。 「ゆいまーる」とは沖縄の言葉で、「結い」＝「人と人が結びつき助け合って生きていく」という意味。

四階建ての施設の一、三階が介護福祉施設（特養老人ホーム、ショートステイ、デイサービス）ですが、一階には、他にもカフェテリア、福祉交流スペース、託児所、障がいのある方のための日中一時支援スペースが併設され、更に市直営の「ひまわり発達相談センター」も入っています。

また、四階は障がい者グループホーム（20名定員）で、まさに施設そのものが「結い」を象徴する作りとなっていました。



人当たりの良さを、仕事に活かす

入職三年目の武田将太さん（21歳）を取材しました。武田さんは「県立八千代特別支援学校」の卒業生で、週に五日、施設内のフロアや居室の清掃、クリーニング業務を担当しています。高等部三年の平成24年に、当時開設一年目の「ゆいまーる習志野」で二度の実習を経験。体の大きな武田さんですが、「人当たりが良い」「穏やかな性格」といった性格上の強みを学校の先生が見出し、紹介して下さったそうです。卒業後はそのまま就職し、今の職場に配属されました。



今後の抱負を尋ねてみました。

体調管理を第一にして、目の前の仕事を一生懸命続けていきたいです！



取材をしてみました。

「21歳にしてこの落ち着き！」と思わず唸りましたが、お給料は主に新作ゲームの購入に使っているとのこと、年相応の若者らしい一面も見られました。恵まれた職場環境の中、人間関係に育まれ、武田さんにはさらに大きく成長していったって貰いたいと思います。

★ゆいまーる習志野（習志野市秋津三五一）

電話 047-453-1002 FAX 047-453-1011

設立日 平成24年5月1日 従業員数

常勤60名、非常勤60名（うち障がい者2名）

気は優しく、力持ち

施設では毎日、スタッフや入居者、来客者など、たくさんの人たちと顔を合わせます。その都度立ち止まり、笑顔で挨拶する武田さんは評判も上々。勤務時は、お母さんのようなパートの女性スタッフ二名といっしょに動きます。チームで働くことで、安心して仕事に取り組んでいるようでした。武田さんもおむつ等が入った重いゴミ袋の運搬などを積極的に行っており、皆さんからは「とても助かっています♥」といった言葉が出ていました。

障がい者グループホームとは…

障がい者を有する方等が世話人と共に地域のアパート、マンション、一戸建て等において数人のグループで生活する居住の場を言います。



ご存知ですか？ 千葉県の最低賃金

千葉県内の事業場で働くすべての労働者（パート、アルバイト等を含む。）及び、その使用者に適用される千葉県最低賃金が改正されています。

平成27年10月1日から
時間額817円
（従来の798円から19円引上げ）

詳しくは、千葉労働局へ。

あゆみっし

ならたくでは、障がい者に関する就労の情報を、随時募集しています。企業さんからの障がい者の温かいエピソードなどもOK！
お便りお待ちしております！



編集後記
ラグビー日本代表の大活躍は記憶に新しい。にわかファンでもいい。ラグビーを好きになるきっかけになればと、ラグビー経験者の私は思う▼現地は色々な国の人がいた。選手は国の威信をかけ命がけで戦う。サポーターは大声で応援する。…そして、ノーサイド。ホイッスルと同時に選手もサポーターも、敵味方関係なく健闘を称え合う。この精神が、色々な世界に浸透してほしいと思った▼世界の戦争や紛争。身近だと福祉の世界。多様性を認め合うということだ▼もう一つ、ラグビーで使われる言葉。「ひとはみんなのために、みんなはひとりのために」誰かの為に生きていけば、大切な何かが返ってくる。そんな解釈でもいい。ラグビーは、どこか福祉と似ている▼ラグビーの素晴らしさを今回改めて感じた。多少、ひいき目にみても。(I)

お問い合わせ

習志野市障がい者地域共生協議会
（事務局）習志野市障がい福祉課
習志野市鷺沼1丁目1番1号(仮庁舎3階)
tel: 047-453-9206
fax: 047-453-9309
ホームページ:<http://www.city.narashino.lg.jp/joho/keikaku/shogai/jiritushiennkyougikai.html>